

# 風土記の丘の花だより<sup>143</sup>

今、そしてこれから見られる植物(2022年7月16日)

例年なら、梅雨明け前の大雨というのがありますが、今年はずっと前に梅雨明けしたことになっていますから、こんな雨、なんと呼べばいいのでしょうか。何はともあれ草木にとってはいいお湿りです。ヘクソカズラの花が咲いています。名前こそパツと



しませんが、花はとても可憐です。ふとしたことから高浜虚子のこんな俳句を見つけました。「名をへくそ かづらとぞいふ 花盛り 虚子」これは「へくそかづらも花盛り」という諺が元になっているのではないかと書かれていました。早乙女かづら、やいと花などいろいろな呼び名があるアカネ科の、ちょっとだけにおうというか、正直臭いつる草です。



夏だというのに、もうアキノタムラソウが咲き始めました。薄紫色の小さな花が長い花茎に沿ってたくさん付きます。この花が咲くと、幸せを呼ぶハチ、ルリモンハナバチが蜜を求めて集まって来ます。風土記の丘でも毎年観察しています。紺色に水色の模様があるかわいいハチです。是非みつけて下さい。幸せになるかどうかは、責任が持てませんが……。



修復古墳を過ぎた右側に大きなシナサワグルミの木が何本かあって、長い実がたくさん垂れ下がっています。名前からも察しがつくように中国から渡ってきた木です。花は全く目立ちませんが、実はたくさん連なって垂れ下がるので、よく目立ちます。クルミの仲間ですが、カエデの種子のような翼が付いていて、食べるクルミとは似ても似つかない実です。



オレンジ色のオニユリの花が咲いています。気の毒な名前ですが、一つ目のヘクソカズラよりはマシかな？葉の付け根に黒くて丸いものが付いていますが、それは「むかご」です。よくヤマノイモにも付いていますね。あれといっしょで、それが落ちて発芽してふえることもできます。むかごが付かないのはコオニユリですが、ここでは見かけません。 松下